

シンポジウム

プログラム番号 2903G

「大学教育の組織力を高める」

NEW!

■講師

濱名 篤（学校法人濱名学院 理事長、関西国際大学 学長、関西国際大学基盤教育機構 教授）
1987 年上智大学大学院文学研究科社会学専攻博士後期課程単位取得満期退学、2004 年博士（社会学）の学位取得。1998 年より関西国際大学教授。主な兼職として、文部科学省学校法人運営調査委員、同大学設置・学校法人審議会（大学設置分科会）特別委員、一般社団法人大学教育学会常務理事、初年次教育学会理事、日本高等教育学会理事など。専門は高等教育論、教育社会学。

鳶田 敏行（茨城大学 全学教育機構 准教授）

平成 15 年 4 月に金沢大学大学院自然科学研究科地球環境科学専攻博士後期課程を単位取得退学し、茨城大学総務部総務課に文部科学事務官（一般係員）として着任。平成 17 年 3 月からは評価室（Office of Institutional Research）の専任教員として評価業務と IR 業務に従事する。平成 28 年 8 月から全学教育機構総合教育企画部門に異動し、質保証（IE）を中心に、IR およびアセスメント関連業務を担当している。

井上 真琴（同志社大学 学生支援機構事務部長）

1986 年同志社大学文学部卒、大学職員として教務事務、システム開発、図書館、企画業務に従事して現在に至る。その間、大学コンソーシアム京都・副事務局長を務めた。企画業務では、高等教育政策調査およびラーニング・コモンスの設計・運営に携わる。著書として、ちくま新書『図書館に訊け！』（私立大学図書館協会賞）を刊行し、同大学嘱託講師（学術情報利用教育論）を務める。

■指定討論者

弓削 俊洋（愛媛大学 理事・副学長、教育・学生支援機構長）

1978 年 3 月立命館大学大学院文学研究科修士課程修了、文学修士。2000 年 4 月より愛媛大学法文学部教授。その後、国際交流センター長、ミュージアム館長等を歴任。理事・副学長（教育担当）2009 年 4 月～2012 年 3 月、2015 年 4 月～に就任し、現在に至る。

司会 小林 直人（愛媛大学 学長特別補佐、教育・学生支援機構 教育企画室長）

■プログラム概要

個々の教職員の力が大学教育において重要であることは疑いの余地はありません。一方で、個々の教職員の力の総和が必ずしも大学全体の力ではないことも理解しておかなければなりません。大学教育においては、個々の教員の授業が優れていたとしても、カリキュラム全体として重要な内容が抜け落ちていたり、提供する授業の間に内容の重複が多かったり、学生が段階的に履修できる時間割になっていなかったり、適切な学生支援が受けられない状況であったりしたら、組織として問題があると言えるでしょう。

近年の高等教育政策では、教育の質保証に向けて大学教育の組織力を高めることが期待されています。本シンポジウムでは、大学教育の組織力を高めるにはどのようにしたらよいのかを参加者とともに考えます。具体的には、学長はどのようなリーダーシップを発揮すべきなのか、インスティテューショナル・リサーチがどのような支援をすることができるのか、大学職員がどのような役割を果たすことができるのかという3つの観点から、大学教育の組織力を高める方法と課題を議論し、参加者に所属する機関の組織力を高める上での示唆を提供することを目指します。

■主な受講対象

教職員（SPOD フォーラム 2019 に参加される全ての方）

■日時・場所

日時：令和元年 8 月 29 日（木）15：30～18：00

場所：愛媛大学城北キャンパス